

「安全運転研修」について

10月20日（日）に「安全運転研修」を開催しました。

この研修は、神姫バス安全教育課による指導のもと、

①基本に戻る、②自分の限界を知る、③安全意識の向上をテーマとする体験型の研修会です。

<研修内容>

- ・ 開講
- ・ ストレッチ体操



今回は、姫路・神戸・三田の各営業所から15名の方々が参加しました。

・ 車両点検

課題① ゆるんだホイールナットを探せ！



課題② 空気の抜けたタイヤを探せ！



車両点検は、ブレーキ・タイヤ・灯火類・燃料など運行前後の確認が義務付けられています。疑いの目を持って点検する。また、毎日の点検の積み重ねによりわずかな変化への気づき、すなわち早期の異常発見につながります。

<受講者の声①>

- ・ 毎日の運転の中では気付けないことや安全に関する知識を得られてよかったです。
- ・ 初心に戻りもう一度基本を厳守する事の大切さを再認識しました。

- 「見ているようで、見ていないかも？」
- 基本姿勢の重要性 • 視界特性と死角

大型車両には乗用車とは異なる死角が非常に多く存在し、様々な角度を映すためのミラーが設置されています。しかしながら、ある検証では、障害物がミラーに映っているにもかかわらず車を発進させてしまうケースが多数を占めるという結果が報告されています。



- 運転と反応（緊急回避）… 認知・判断・操作のメカニズム



車が停止するまでの距離は、①危険を感じてからブレーキを踏み、ブレーキが実際に効き始めるまでの間に車が走る距離【空走距離】と、②ブレーキが効き始めてから車が停止するまでの距離【制動距離】の合計に③危険な状況が目から脳に伝わるまでの距離【知覚距離】が加算されます。自らの感覚を過信せず、十分な車間距離を確保し、控えめな速度と早めのブレーキを心掛けましょう。

- シートベルトの重要性

- 閉講



研修では、「時速 10km で走行し急ブレーキをかける」という状況をシートベルト装着、未装着の 2 回体験しました。シートベルトを装着しない場合、身体は大きく前方へ傾き、首や身体を支える腕に大きな衝撃がありました。シートベルトは座席毎に耐荷重の限度があるため、前後すべての座席でシートベルトを装着することが重要です。

<受講者の声②>

- 今回の研修でデータと実体験で安全運転ということに対して自信ができました。
- 危険予測、安全運転の大切さを身をもって体験で想像以上の体感に非常におどろきました。